

## 「自分の思いを自分の言葉で伝えることのできる児童をめざして」 ～書く活動の指導の充実と発表の場の工夫を通して～

### I 研究の内容

#### 1 研究の具体的内容

- ・「自分の思いを自分の言葉で伝えることのできる児童をめざして」、理論研究と書く活動の具体的な取り組みについて
- ・指導主事を招聘しての学習会 「書く活動」「特別支援教育」
- ・外国語活動について

#### 2 研究の具体的方法

- ・基本的には、一人一回、授業を公開する。そのうち、低・高1本ずつは共同研究とし、ブロックごとに事前に検討会をもち、その後全体会で検討する。その他の学年は、授業を公開し、事後研究会を全員で行う。
- ・研究授業は、共通の視点【自分の思いを自分の言葉で伝えることのできる児童】をめざし、書く場面と発表の場を授業の中に入れた実践を行う。
- ・年度初めに、児童の国語に関する実態調査を行う。その結果に基づき、児童の「自分の思いを伝える力」の向上のために取り組むことを学校体制で確認し、年間を通して実施していく。年度末に児童の変容を見取り、1年間の取り組みの反省を行う。
- ・本年度新設された特別支援教室を全校体制でより良く運営するための学習を行う。
- ・外国語活動について、模擬授業などの実践を中心に学習会を行う。

#### 3 「書く力」を伸ばすための取り組み

☆言葉で考え、伝え合うために、「児童に使わせたい言葉」（低学年用・高学年用）を検討し、学習活動や学校生活の中で、児童に身につけさせていく。

☆自分の考えを明らかにして、その根拠を伝える活動の実践について、各学年でどんな取り組みをしたかを確認し、課題については、来年度に活かす。

#### 4 「自分の思いを自分の言葉で伝えることのできる児童をめざして」の日常的取り組み

☆全校集会など、全校で集まる時

○挨拶は、号令なしで、相手の動きに合わせて行う。（話す人を見る習慣作り）

○集会などの際、児童の気持ちを聞く場をできるだけ作る。（人前で話す場作り）

○発表のときは、できるだけ紙を見ないようにする。（聞く人を意識させる習慣作り）

☆各学年の教室で

○学習のルールを決める。声の大きさの物さし・話し方の基本・話し合いの基本・上手な聞き方などを掲示。

○朝の会か帰りの会で、スピーチの時間をつくる。

○教師対児童の会話のやりとりだけでなく、児童同士の会話ができるような機会を取り入れる。（話し合い活動や相互指名などの方法も学ぶ。）

☆読書活動を推進する。

- おすすめの本20冊の継続
  - 読書の宿題を出すなど読書の時間の確保と読み聞かせの時間の確保
  - 1週間に1回図書室で本を借りて読む。
  - 本を自分の近くに置いて、時間があるときにいつでも読めるようにしておく。
- ☆合唱づくりからも学級づくりを進める。

○月の歌を決めて、全校で取り組み、その成果を毎月1学年ずつ、全校児童の前で発表する。

## 5 外国語活動について

- ・英語の中核教員が中心になり、模擬授業の学習会を開いたり、担任が中心となる授業実践に積極的に取り組むことができた。

## II 成果と課題

### 1 成果

- ・研究主題は本校の児童の実態を踏まえ、具体的な児童像を明確にした主題設定で、よかった。
- ・「書くこと」によって、自分の思いや考えを整理し、さらに思いや考えを深めることができた。そのことにより、一人ひとりが自分の言葉で自信をもって発表することができた。
- ・ブロックごとの話し合いでは、活発な意見交換ができ、共同研究の授業に向けて、とても有益だった。
- ・「児童に使わせたい言葉」を検討し、教室に掲示できたことは、日々の学習活動に活かすことができ、よかった。
- ・「自分の考えを明らかにして、その根拠を伝える活動の実践」については、物事を深く捉えようとする習慣を身につけさせることができた。
- ・外国語活動については、多くの職員が実践を提供でき、学習し合ったので、来年度から本格的に実施される外国語活動について、準備を進めることができた。

### 2 課題

- ・新教育課程の移行期のためか、研究に取り組む内容が多く感じられた。どの内容を深めていくか、検討の余地がある。
- ・年度末の児童の変容をどう捉えるか、科学的なデータをどのように用いるか、今後の問題である。

## III 成果物

- 1 第1学年 国語科授業案 「ことばって、おもしろいな」
- 2 第2学年 国語科授業案 「あったらいいな、こんなもの」
- 3 第3学年 国語科授業案 「すがたをかえる大豆」【低学年ブロック共同研究】
- 4 第5学年 国語科授業案 「伝え合って考えよう」【高学年ブロック共同研究】
- 5 第6学年 国語科授業案 「スイッチョの歌」
- 6 「児童に使わせたい言葉」低学年用・高学年用

(研究主任 高野 恵美子)